10月

パストラール尼崎

神無月

No148.2024(R6)年9月25日
〔編集・発行〕
パストラール尼崎
尼崎市潮江１丁目１０-２
Tel. 06-6493-0521
Fax.06-6493-0301
発行責任者：竹田　憲之

◆10月の歳時記◆

『香りの記念日』

十月三十一日は、「香りの記念日」だそうです。人は、何故「香り」に魅了されるのでしょうか？　女性に限らず、最近では若い男の子たちもこぞって香水をつけたり、香水入りの石鹸や柔軟剤なども多種多様なものが普通に出回っています。

実はこれ、現代に限った事ではなく、大河ドラマ「光る君へ」で注目されている平安時代は、今以上に「香り」は重要な役割を担うものでした。清少納言の枕草子に、心をときめかすものとして、**「高級な薫物を焚いて、一人で横になっている時」「髪を洗って化粧をして、しっかりと良い香りが焚き染められてついた着物を着た時」**と記しています。緊張の連続の宮仕えから解放され、香りに癒されている様子が目に浮かびます。現代のアロマセラピーのような使われ方ですよね。

一方、源氏物語では、光源氏が入ってくるとフワッといい香りがして・・・とか御簾の中からお香のいい香りが漂ってきて・・・など、高貴な人物が登場する度に香りの記述がありますが、当時は、高価な輸入品の香木を手にする事は財力のバロメーターであったり、オリジナルの調合は、その人のセンスや教養が試されるものであった為、貴族たちは競って様々な工夫をしました。しかもその使用量は半端ではなく、時にはお香を焚き蒸して周りの色が変わる事もあったようです。汗　今の様に明るい所で相手の顔が見る事ができず、御簾の向こうや、檜扇から少し覗く程度でしかうかがい知る事のできなかった時代に、香りは重要な自己表現のツールであったのは想像できます。

この様なロマンチックな使い方とは別に、「香り」は生活する上で無くてはならないものでした。当時の貴族たちは、爪切りから風呂、仕事、外出時の方向まで陰陽師による占いによって左右されていました。その為、儀式以外で入浴する習慣がなく、体や髪、衣服にお香を焚き、体臭を消していたと言われています。何層もの着物を着用している上、長い髪で何日もお風呂に入らなかった貴族の間では皮膚病に罹患する人も多く、当時の不潔さは「枕草子」でも、とある貴人の〝襟のアカ〟を指摘しています。またトイレ事情も劣悪でした。屏風や簾で区切った「樋殿（ひでん）」と呼ばれる空間に、「樋箱（ひばこ）」と呼ばれる簡易トイレを置いて使っていたそうですが、水洗などの環境が整備されていなかった時代、部屋の消臭も必須だったはずです。雅な生活を送っていた平安貴族たちですが、嫌な臭いを隠すための芳香剤と、自分を魅力的に演出する香水の香りとの闘いだったかもしれませんね。

今どきの運動会事情

昔の運動会といえば、母親は朝から家族分の豪華弁当の準備に大忙しで、かたや父親は場所取りと秋の一大イベントでしたね。種目もたくさんあって、中でも組体操や騎馬戦、棒倒しなど、下級生から見る大きいお兄さん達の迫力ある雄姿は憧れの的でした。それにも増して嬉しかったのはお昼の時間。敷かれたゴザの上に所狭しと並んだ豪華弁当を、競技の成果を両親に褒めてもらいつつ家族と共に食べる時間は何にも代えがたい幸せな時間でした。そういえば、走っていると近所の見知ったおじさんの声援が聞こえてきたり、ＰＴＡの踊り？や競技なども盛大に行われていました。あの頃は隣同士の絆も深かったのかもしれませんね～。

しかし今の運動会はというと、この暑さで５月に開催する学校も増え、競技も午前中だけでお弁当もなく、組体操など危険な競技は禁止。汗　昔を知る人間としては少し淋しい気もしますが、これも時代の流れですね～。一方、なるほどと思ったのは、順位が出る徒競走は、昔は背の順が殆どでしたが、今は事前に測ったタイム順で走者を決めるケースも。遅い子なりにグループで１位になる可能性もあるらしいのです。グッドアイデアですね～！

令和6年度

パストラールシニア大学

今年度も多彩な講師をお迎えし、充実した内容でお届けしています。講師陣からその受講姿勢を絶賛されていた皆さま。今年度も是非ご参加下さい。

＊毎回フロントにお申込み下さい（席に限りがあります）

＊当日は、学生証も忘れずに！

第5回

被災地で感じた
『情報のズレ、温度差』

・日時：10月4日（金）14時

元、NHKアナウンサー、関西発ラジオ深夜便担当
大阪芸術大学教授

住田　功一 氏

阪神淡路大震災の時、ＮＨＫアナウンサーだった住田氏は、神戸から最初のリポートをした。激震からわずか１８分後のことだった・・・